

教科	数 学	科 目	数 学 A	
履修条件 対象生徒	必履修 デザイン科 2学年			
学習目標	場合の数と確率、整数の性質について理解を深め、基礎的な知識と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を身に付ける。			
学習方法	<p>〔授業〕 授業を集中して受けることが大切である。授業では、教科書の内容だけでなく、別解や発展させた内容の追加説明など多くの重要事項が説明される。授業を真剣に聞き、理解できない所はその日のうちに質問し解決しよう。</p> <p>〔家庭学習〕 予習と復習を毎日しよう。1時間で進む授業の内容は、教科書2～4ページ程度である。予習をして、分からなかった内容をチェックしておき、授業で解決するようにしよう。また、その日に習った内容を、その日のうちに、本当に理解できているかを確認することが大切である。日々の復習を通じて「分かる」状態から「解ける」状態に昇華させよう。</p> <p>〔補習・その他〕 補習では教科書より難易度の高い問題を取り上げ、ハイレベルな問題を解くことによって、さらに理解を深める。</p>			
学習計画 と ねらい	<p><2学期中間考査まで> 数学A 第1章 場合の数と確率 1 集合と要素 2 集合と要素の個数 3 場合の数 4 順列 5 組合せ 6 事象と確率 7 確率の基本性質 8 独立な試行とその確率 9 条件つき確率と乗法定理 10 期待値</p> <p><学年末考査まで> 数学A 第2章 数学と人間の活動 1 数の歴史と記数法 2 n進法 3 約数と倍数 4 整数の割り算と商 5 ユークリッドの互除法 6 不定方程式 7 相似を利用した測量 8 三平方の定理の利用 9 座標の考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集合、順列・組合せについて理解し、「もれなく、重複することなく、効率的に」数えることができるようになるとともに、図や表などを効果的、能率的に用いて問題を考察し処理できるようにする。 ○ 身近にある例を基に、試行や事象の考え方を明確にして、不確定な事象を数量的にとらえることの有用性を認識するとともに、事象を数学的に考察し処理できるようにする。 ○ 整数に関連した事象を考察し、表現できるようにする。 ○ 整数の除法の性質に基づいてユークリッドの互除法の仕組みを理解する。 ○ 整数の性質や図形を事象の考察に活用することができるようにする。 		
評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な概念や法則を理解している。 ・ 数学的に表現や処理をする技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学を活用して事象を論理的に考察し、数学的に表現する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養おうとしている。 	
評価方法	<p>①定期考査では問題を観点別に分類し、評価する。 ②内容の理解を深めるために小テストを行う。 ③授業態度においては、出席状況、演習問題の板書等を評価に反映させる。 ④課題や提出物を定期的に確認する。 以上を総合的に判断して評価する。</p>			